

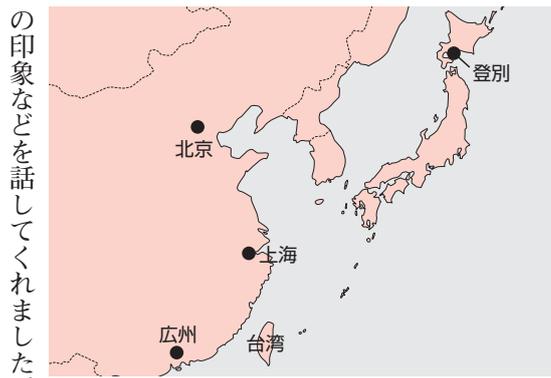
登別の皆さんは 優しい方ばかり

林さんは、中国の広州市南沙区投資促進服務中心で、主に外国企業の誘致に関する仕事を担当しています。

広州市は、中国の南部・広東省の省都で、面積は約7千430平方キロ、人口は約1千270万人。50社を超える日系企業が進出する工業が盛んなまちです。

「日本に来たのは今回で11回目、北海道は4回目です。登別を訪れたこともあり、硫黄の匂いが立ち込める地獄谷が神秘的でしたね。この研修は、家族の理解や後押しもあり、自分の将来を考えても良い体験になると思い申し込みましたが、登別での研修という希望が本当に叶うとは思いませんでした」とうれしそうに話す林さん。

「北海道は雪がたくさんあり、冬に行く場所だと思っていました。夏、夏の北海道も感動的で、言葉で表現できないくらい素晴らしい自然に恵まれた緑あふれる大地ですね。登別は、日本の温泉地として中国でも有名で、今では毎日温泉に浸かることが楽しみのひとつです。市民の皆さんも初対面という感じがせず、優しい方ばかりですね」と登別



の印象などを話してくれました。

市民の皆さんと友好の 輪を広げたい

「登別での研修が始まってから、早いものでもう3カ月が経ちました。これまで観光行政の勉強やイベントの手伝い、テーマパークでの実務研修などを通して、登別の観光戦略を学んだら、観光資源の豊かさを実感したりしました。これからさまざまなことを学び、帰国後の仕事に役立てていきたいですね。また、11月に予定されている登別市と広州市の友好都市提携に向け、市民の皆さんとも交流し、友好の輪を広げたいですね」と笑顔で話してくれました。

林さんは、11月中旬に帰国する予定です。



KIRARI

リン ゼン カ 林 善花さん(中国・広州市)

市は、国際交流事業の一環として、総務省などが行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

協力交流研修員として、登別市の一般行政や観光行政などを学ぶため、中華人民共和国の広州市から5月20日に来日、6月21日から登別市での研修を始めた林善花さんに登別市の印象などをお聞きました。

市民の皆さんとも交流し、 友好の輪を広げたい



▲国際理解講座で広州市を紹介する林さん(左) ▲登別地獄まつりで女官に扮する林さん(中央)



1972年、中国黒龍江省生まれ。39歳。

広州広播電視大学卒業。現在、広州市南沙区投資促進服務中心に勤める。日本語堪能。日系企業に勤める夫と娘の3人で広州市に居住。